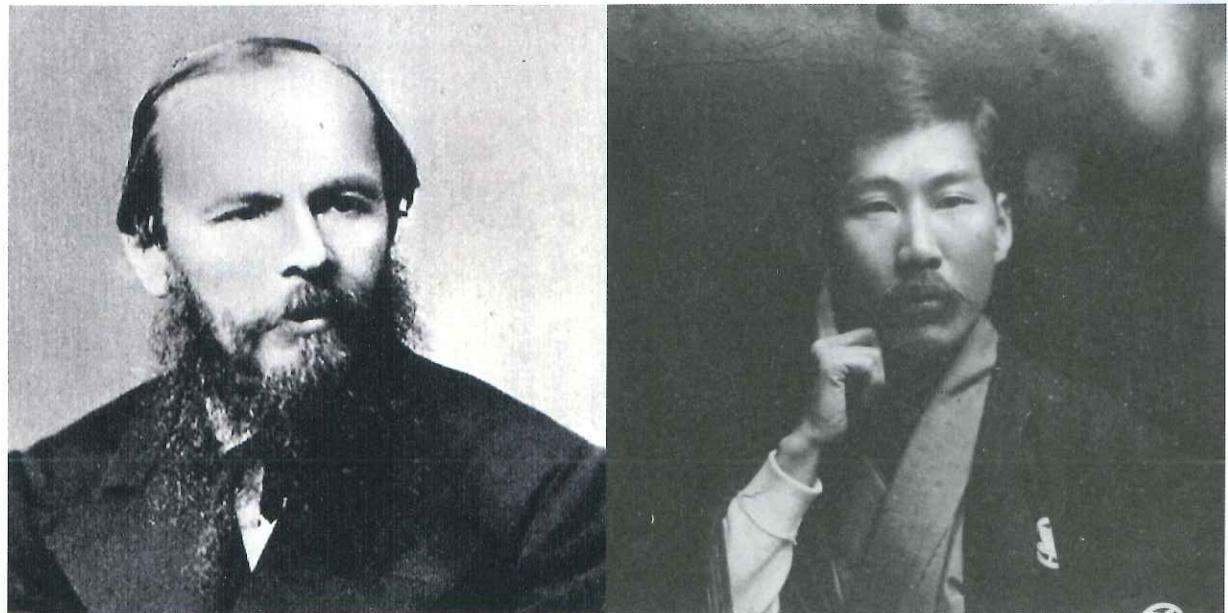


藤並の森

vol.95
2021.11

リレー随筆

幸徳秋水とドストエフスキイ 山泉進



ドストエフスキイ(左)と幸徳秋水(右)肖像写真

『幸徳秋水全集』(明治文献版、第六巻)には、ドストエフスキイ原作の「悪魔」と題された小説の翻訳が収録されている。ドストエフスキイはもちろん『罪と罰』や『カラマーゾフの兄弟』などの作品で名高いロシアの小説家であり、今年が生誕二百年になる。小説「悪魔」は、秋水刑死後の一九一九(昭和四)年一月号の『文芸戦線』というプロレタリア文学雑誌に掲載された。編集者の前書きによれば、この原稿は堺利彦が所蔵していたものであり、秋水の「遺稿」であると説明されている。

小説「悪魔」は、豪奢な法衣を身にまとつた一人の僧侶が、莊厳な寺院のなかで、貧民たちに対して、皆さんの人生は主なる神によつて与えられたものであり、それに従うことが義務である。ところが皆さんは十分な信仰をもたず、教会への寄付もない。それでは地獄で苦しみを受けることになる、このように説いて寄付をまきあげていた。たまたま、通りすがりの悪魔がその話を聞いて、僧侶の襟首をつかんで、工場、農場、貧民の住居、そして監獄へ連れ行き、あの世の地獄以上に苦しめ、現世の地獄を思い知らせてやる、というストーリーである。

秋水は、訳者の序で、この小説は、ペテロバーヴロフスク要塞監獄(秋水の訳注では「彼得保羅」(ペテロボロ)監獄)の教誨所の壁に鉛筆で書かれたものであるが、修繕の際に発見され保存されていた。後日、同じ監獄に収監されていた一人の囚人が、シャツの袖に写し取つて出獄し、半世紀後に世に知られるようになつたと説明している。そこに書かれた「一八四九年一二月一三日」という日付と筆跡からドストエフスキイの作品であることが判明した、と書き加えている。

ドストエフスキイは、一八四九年に「ベトラシェフスキイ事件」に連座し、軍法会議において銃殺刑の判決をうけた。「二月一三日」という日付は、判決の二十四日後ということになる。二月二三日、処刑場に運ばれたが、処刑直前に皇帝ニコライ一世の恩赦により、懲役四年に減刑され、オムスクの要塞監獄に送られた。

不思議なことに、現在、小説「悪魔」は研究者たちによつてドストエフスキイの作品であるとは認められていない。ということは、秋水による「贋作」ということになるが、この謎を解ける人がどこかにいないだろうか。

誕生
150年

幸徳秋水展

こうとくしゅうすいてん

「誕生150年 幸徳秋水展」を開催します。

ジャーナリスト・民権運動家・思想家である幸徳秋水は、明治4年、幡多郡中村町（現四万十市）に生まれました。初めて漢詩を詠んだのは8歳の時。祖母の還暦を祝う「賀寿筵開」でした。祖母の滝刺とした様を「綠髪」と称えるなどの書きぶりからは、漢詩への萌芽が感じられます。

大阪では中江兆民の書生となり、彼の助言で英学館に通い始めます。その後朝報社に入社するも、日露戦争開戦論に抗し、盟友・堺利彦とともに退社。一人は平民社を立ち上げま



秋水使用の英語の教科書
／四万十市郷土博物館所蔵

す。同社発行の週刊「平民新聞」では、「嗚呼増税!」「兵士を送る」などの反増税論や非戦論を展開しますが、秋水は責任を問われ入獄、平民社は解散に追い込まれます。失意の秋水は渡米、現地の社会主義者らと交流を深めています。

明治41年、38歳の時、堺や女性運動家らが検挙される「赤旗事件」が起こり、秋水は裁判傍聴のため上京。この頃、妻・千代子と協議離婚、管野スガと同居したことでも同志から批判され、肩身が狭くなっています。この

前後、管野を中心には天皇暗殺計画が進んでいましたが、秋水自身は「著述に専念したい」と考えており、管野も秋水を密議に参加させようとはしませんでした。

明治43年、秋水逮捕。翌年1月、秋水をはじめ12名に死刑求刑。秋水は獄内での絶筆となる「基督抹殺論」を完成させました。そして死刑の朝、刑場へ向かう直前まで綴っていたのが、未完の「死刑の前」でした。

本展では、「賀寿筵開」や兆民の臨終時に詠んだ「次兆民先生病中見示韻」などの漢詩、「廿世紀之怪物 帝国主義」をはじめとした雄辯のほか、秋水を支え続けた母・多治や堺らとの書簡等を通して、亡くなる直前まで漢詩や論説を書き続けたその濃密な生涯に迫ります。

平民社での日常を綴った「平民日記」（四万十市郷土博物館所蔵）や、初



秋水自筆日記「時至録」
／専修大学図書館所蔵



秋水草稿「平民日記」
／四万十市郷土博物館所蔵

ふしぎ駄菓子屋 錢天堂へ ようこそ

展覧会 レポート

会期

令和3(2021)年

9月18日(土)～11月14日(日)



当館ならではのアプローチで児童文学作品の豊かな世界や「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」シリーズの魅力を掘り下げる展覧会【「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」へようこそ】が11月14日(日)に閉幕しました。

本展では、廣嶋玲子先生・jyajyajya先生からのお客様にむけたメッセージをはじめ、それぞれの創作スタイル、影響を受けた文学者等をお聞きした特別インタビューのほか約170点の資料を展示。

貴重なラフスケッチや公開されなかつた絵、本展のために描き下ろされたイラストも随所に配置しお客様をお迎えしました。

なかでも注目を集めたのが「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」に登場する魅力

的な駄菓子の立体造形です。「虹色水あめ」のリボン裏の文字や、「おもてなしティー」の缶底ラベルなど細かい部分まで作品に忠実に再現した展示に、お客様から「小説の世界がそのまま飛び出してきたような再現度にとても感動しました」等の嬉しい言葉をたくさんいただくことが出来ました。

駄菓子を考えて投稿する「駄菓子開発コーナー」も人気のコーナーとなりました。書いていただいたオリジナル駄菓子は閉幕後、出版社にお届けしています。

「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」シリーズには児童文学の主題である「成長」や「自分で考え、選択することの大切さ」が詰まっています。

廣嶋玲子先生は今回の特別インタ

本展では、この「幸も不幸も自分次第」そのままに、自分で【選んで】展示をご覧いただくアプローチで作品の深い魅力にせまりました。

開催にあたり、コロナ禍での適切な鑑賞協力をいただきました来館者の皆さま、格別のご協力を賜りました廣嶋玲子先生・jyajyajya先生、偕成社様、studio9223様、関係各位に厚く御礼申し上げます。

(学芸課／福富陽子)



当館オリジナルの「ふしぎ手帳」

県審査及び記念講演会を開催しました！

高知県立文学館が主催する朗読コンクール。昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響でやむなく開催中止となつたため、今年の再開を待ち望んでいたというお声もいたなど皆様の期待を感じながらの開催となりました。途中、県内の感染者急増による「非常事態」を考慮し、やむなく日程を延期するなどしましたが、参加各校をはじめ関係者の皆様のご協力のおかげで無事に地区審査を実施、11月14日に県審査を開催することができました。

県審査には、西部・東部・高知の各地区審査を通過した19名の小・中学生が出席。感染防止対策として透明のパーテイションを隔てての朗読発表でしたが、これまでと違う環境でも、声の抑揚や緩急強弱や間に工夫をすることで、わたしたち聞き手の想像力が刺激されるような、表現豊かな朗読を届けてくれました。コロナ禍の、声を出しづらい今の状況の中で、ひたむきに朗読作品と向き合い、作品を読み込み、練習を重ねて来た児童生徒の皆さんのが朗読発表は、まさに「自分」の声に想いを乗せて届ける“という朗読の魅力にあらためて気づかせてもらえた、素晴らしいものでした。



柴田ケイコさん記念講演会の様子

また、今年のコンクールでは、特別審査委員にイラストレーター・絵本作家の柴田ケイコさんをお迎えし、記念講演会を開催しました。今回は、県審査出場の児童生徒の皆さんをはじめ、一般参加者からも柴田さんへの質問事項を事前にいただき、進行役のフリーランナウンサー・長谷川恵子さんとの対談の中で柴田さんに答えていただくというスタイルでしたが、児童生徒の皆さんからは子どもの頃の夢や絵本作家になろうと思ったきっかけなどについて、一方大人の方からは、高知で仕事をすることの喜びや子どもたちに伝えたいことなど、それぞれの視点での質問がたくさん寄せられたのが印象的でした。終始和やかな雰囲気に包まれたお一人の対談は、柴田さんのさまざまな魅力に出会えた、とても豊かな時間であったと今あらためて感じています。

今回も、参加してくださった児童生徒の皆さんをはじめ保護者の皆様、学校の先生方、関係者の皆様のご協力を得て、朗読コンクールを開催できましたこと、心から感謝申し上げます。

(学芸課／道脇夕加)

まだ食料のなんにもない昭和二年のこと、私はやつと手に入れた林檎をばんと二つに割つたところへ重い荷物を配達してきました。私は惜しげなく「今割つたけど」「チエツ

馬鹿にしてやがら林檎半分でえ、何でえ」私は恥しくて玄関の板の間にうつ伏して、少時誰の顔もよう見なかつた。又或時婦人記者が子供の多いこと食料難のことに就いて縷々語られたので、私は又癖がで、かき餅やビスケットを罐の底をはたいて上げて了つた。何か嬉しかつた。子供のよろこぶ顔まで思ひ浮べて。が玄関へ送り出した私は、私よりずつと立派なオーバと靴をみた。私は自分の安での愚なる習癖がむしろあはれで泣きたい思ひがした。数へきれない中の最も悲しい習癖。

右記は、「平城山」の作詞で知られる北見志保子が、南風会へ送つた葉書の裏面に書かれていた文章です。志保子は「女人芸術」あらくれなどに、小説や隨筆を執筆。歌人としては、橋田東声の「霸王樹」を経て、古泉千櫻、北原白秋、折口信夫に師事。「草の実」「月光」「定型律」「花宴」などを創刊・主宰し、戦後は、女人短歌会の結成にも尽力しました。彼女の作品は、短歌、短篇小説、隨筆、作詞等多岐に及んでいます。

また、南風会は、高知出身の作家を中心に関成され、会員には、大原富枝、片山敏彦、上林暁、小山いと子、田宮虎彦、

topic

歌人 北見志保子 南風会宛葉書



(学芸課長／津田加須子)

森下雨村、安岡章太郎と錚々たる作家が名を連ねており、中には、父親が高知出身の三浦朱門、曾野綾子夫妻の名も見られます。葉書の消印は、昭和二十九年八月二十日となっており、一年後の昭和三十一年八月一日発行の「南風」第十号に志保子の遺稿として掲載されました。葉書からは、戦後の混乱期においても、人々の幸せを願い活動する志保子の様子が想像できますが「悲しい習癖」と自分の行為を否定するような内容に、葉書執筆時の志保子の不安定な心理状態が窺えます。この時期、彼女は、体調の優れない日が多くつたようで、九か月後の昭和三十年五月四日、七十歳の生涯を終えています。

今回紹介した資料は、11月21日(日)の「お城下文化の日」で1日限定展示しました。今後も常設展等で公開を予定しています。

寺田寅彦の父・利正のこと

谷 是ただし



小津神社(高知市幸町)にある
寺田利正・寅彦奉納の石燈籠

寺田寅彦の父・利正は、宇賀氏から養子にはいった下級士族であった。高知城下・寿庵屋敷(現高知市寿町)の一角にあって、手内職をせねば生活できない境遇であった。それが、"戊辰の役"となり、板垣の東征軍に参加、会計官となり、理財の才を発揮、軍の会計方の属官となつた。谷干城などにも、その才を認められた結果だろう。以来、榮進を重ね、財務関係の役職を歴任した。その為、理財の道に堪能で、退官しても、その才覚に富む、高知市朝倉や、小津町辺りにもかなりの土地を所有していたという。しかし心配なことは、ただ一人の長男、寅彦が病身なことで、当時から病気が続いていることを悲願とした。小津神社は寺田家の在する小津地区の産土の神で、悲願成就のため奉納した、石燈籠と石橋が残っている。寅彦との連名で刻まれているが、優秀な人物である。長男の、健康への願いが、それに読みとられて、当時の寺田家の痕跡を見ることができる。利正是当時、相当の趣味人で、茶道具なども所有していた。死後これらも売却し、土地も朝倉十四聯隊や、旧制高知高校などの用地に処分したと

聞く。寅彦も以来東京住まいとなり、一切手放したようで、その所得金が、彼の遊学や研究費にも使われたという。寅彦がドイツへ留学できたのも、父が残した資産が大きいに役立つたといわれ、彼の物理学者としての功績や文学にも益したと考えられる。真にこの父にして、この子あらでは厳しく、いわゆる"むつかしい人"。朝から晩まで"小言"を地でいく人であった。嚴父の風貌を持ちつつ、優秀な長男に、満干の期待と愛情を注いだ"幕末・明治の土佐人"。その典型をそこに見るような気がする。利害を越えて、学問に、文学に生きた寅彦の根底には、嚴父の恩愛があつたことを、忘れてはなるまい。

(郷土史家)

寅彦が病身なことで、当時から病気が続いていることを悲願とした。小津神社は寺田家の在する小津地区の産土の神で、悲願成就のため奉納した、石燈籠と石橋が残っている。寅彦との連名で刻まれているが、優秀な人物である。長男の、健康への願いが、それに読みとられて、当時の寺田家の痕跡を見る

ことができる。利正是当時、相当の趣味人で、茶道具などを所有していた。死後これらも売却し、土地も朝倉十四聯隊や、旧制高知高校などの用地に処分したと

聞く。寅彦も以来東京住まいとなり、一切手放したようで、その所得金が、彼の遊学や研究費にも使われたという。寅彦がドイツへ留学できたのも、父が残した資産が大きいに役立つたといわれ、彼の物理学者としての功績や文学にも益したと考えられる。真にこの父にして、この子あらでは厳しく、いわゆる"むつかしい人"。朝から晩まで"小言"を地でいく人であった。嚴父の風貌を持ちつつ、優秀な長男に、満干の期待と愛情を注いだ"幕末・明治の土佐人"。その典型をそこに見るような気がする。利害を越えて、学問に、文学に生きた寅彦の根底には、嚴父の恩愛があつたことを、忘れてはなるまい。

寅彦が病身なことで、当時から病気が続いていることを悲願とした。小津神社は寺田家の在する小津地区の産土の神で、悲願成就のため奉納した、石燈籠と石橋が残っている。寅彦との連名で刻まれているが、優秀な人物である。長男の、健康への願いが、それに読みとられて、当時の寺田家の痕跡を見る

寄贈資料から

資料受贈報告

『悪の華』

馬場孤蝶著 ヒラヤマ探偵文庫刊
令和3(2021)年5月
236頁
湯浅篤志氏寄贈



『悪の華』に編まれた作品は、初出誌を底本に初めて書籍化されました。巻末の解説は、本書を「寄贈くださった湯浅篤志さんが執筆。湯浅さんの編著には、埋もれた作品を掘り起こした労作『森下雨村探偵小説選』I~IIIがありますが、本書『悪の華』もまた、知られざる作品に再び光を当てる一冊です。

(学芸課／小松路代)

受贈報告 (令和3年8月~10月)敬称略

▼池内了「日本の伝記 知のバイオニア
寺田寅彦と物理学」池内了著

玉川大学出版部刊

▼石崎等「大塚楠緒子作品集

石崎等編 未知谷刊

▼渡邊澄子「負けない女の生き方
◇217の方法

一明治・大正の女作家たち

渡邊澄子著 博文館新社刊他

▼小松弘愛「詩と思想 詩人集2021

「詩と思想」編集委員会編

▼長尾轉「詩集始めましょうか
長尾轉著 オフィス・コム刊」

山形敬介「詩集 おれ2020年、
いま」アーツ山形敬介著

オフィス・コム刊他

▼山本衛「詩集はたことば
山本衛著 ONL刊」

▼山田功「教科書に掲載された寺田寅彦
作品を読む 山田功著

リープル出版刊

▼四宮義正「Rōmazino Nippon
673号」「Rōmazino Nippon」
編集委員会編 日本のローマ字社刊

窮理舎「窮理 19号 伊崎修通編」

た。孤蝶は和服姿でパイプを咥えた写真がよく知られ、煙草に関する隨筆を多数書いていますが、本書の収録作にも煙草を用いた印象的な描写がみられ、愛煙家の顔をのぞかせていました。

『悪の華』に編まれた作品は、初出誌を底本に初めて書籍化されました。巻末の解説は、本書を「寄贈くださった湯浅篤志さんが執筆。湯浅さんの編著には、埋もれた作品を掘り起こした労作『森下雨村探偵小説選』I~IIIがありますが、本書『悪の華』もまた、知られざる作品に再び光を当てる一冊です。

高知を旅する文学

コロナ禍で行きたい所にもなかなか行けない……そんな日々が続いているますね。せめて旅先の風を感じたい、そんな皆様に、高知を旅するミステリー、それもあまり紹介する機会のない県外の作家による作品を少しだけご紹介します。

トラベルミステリーの第一人者として名が挙がるのは、西村京太郎。ご存知、十津川警部を主人公とした一連の作品の中には、南風号を舞台に複雑に事件が絡み合う『四国連絡特急殺人事件』、新幹線そつくりの予土線ホビートレインを舞台に事件が起こる『十津川警部 予土線に殺意が走る』、後免から奈半利を走る土佐くろしお鉄道を取り上げた『わが愛する土佐くろしお鉄道』などがあり、謎解きとともに旅情を感じる作品となっています。



(学芸課／川島楨子)

高田崇史著『Q.E.D. 龍馬暗殺』は、Q.E.D.シリーズの第七作目。平家落人伝説の残る架空の村・蝶ヶ谷村を舞台に起る殺人事件を坂本龍馬暗殺にもかかわる謎解きとともに書いた意欲作です。

木谷恭介『土佐わらべ唄殺人事』は、四十万市中村を舞台に母の死とわらべ唄、尋ね人広告の謎が絡むミステリーですが、謎ときのみならず抒情的な描写も印象の深い作品です。

二月から始まる企画展「旅と文学」では、高知県の作家はもとより、こうした県外作家の作品も含め、「旅」をテーマに開催します。楽しみにお待ちください。

お城下文化の日レポート

学芸課
より



高知市中心部にある文化施設が連携した「高知お城下文化施設の会(お城下ネット)」では、毎年11月に「文化」をキーワードにした合同イベント「お城下文化の日」を開催しています。

今年の開催は11月21日(日)。当館でも貴重な資料を公開する「一日限定展示」や、入館者の先着プレゼント、高知城を中心には貴重な資料を公開する「文学さんぽ」など多彩な催しを開催しました。

北見志保子の葉書や大岡昇平の「天誅(組)」草稿、大町桂月の短冊など、貴重な初公開資料を展示了しました。

※北見志保子の葉書はこの館報の4P目で紹介しています。

■先着プレゼント

イベントチラシをお持ちの方先着100名様に寺田寅彦をモチーフにした当館オリジナルポストカードをプレゼントし、大変ご好評をいただきました。



文学さんぽの様子

■文学さんぽ

当館から徒歩10分程度の圏内には、鹿持雅澄愛妻の碑(高知城階段付近)や植木枝盛邸跡(城西公園付近)、寺田寅彦記念館(小津町)といった多くの文学スポットが点在しています。

特に近隣の城西公園には、横村浩の詩碑、馬場孤蝶の句碑、寺田寅彦の文学碑が隣接されており、この館報でも「文学碑通り」として紹介したことがあります。今回の「文学さんぽ」はそんな身近な見どころをゆつたりと巡り、地域の魅力を再発見するものとなりました。

お客様との交流の他に館職員(同士の交流も出来て有意義な一日となつた「お城下文化の日」)。来年も開催する予定ですので、引き続き注目ください。

(学芸課／福富陽子)



藤並の森も落
ち葉が舞い散る
季節になりまし
た。

気が付けば、

毎日が過ぎて行きます。
今年も残すところわずかとなり、何かと慌ただしく

季節になりました。
企画展【ふしぎ駄菓子屋 錢天
堂】へようこそ】では、小学生を中心
にたくさんのお客様にお越しいた
だき、ありがとうございました。

ショッピングでは、企画展開催直前に

発売された「ふしぎ駄菓子屋 錢
天堂」第16巻などの書籍や錢天堂の
工房で働いている「金色の招き猫
ぬいぐるみ」、お話にも登場する怪
盗ロールパンやホーンテッドアイス
の「おもしろ消しゴム」のグッズなど
も好評でした。会期中に新しく発
売された商品の中でも、墨丸や型ぬ
き人魚グミのガシャポンは特に人
気で、限定1000個が短期間で完
売しました。

11月27日から始まりました「生
誕150年 幸徳秋水展」では、関
連書籍を取り揃えておりま
す。また、常時

販売している絵
はがきは新しい
柄も加わりま
したのでショッ
プの方も是非
ご覧になって下
さい。

(総務事業課／山崎幸乃)

館長エッセイ

秋から冬へ

今年も秋が短かった。

地球温暖化の影響か、年々夏が暑く長くなっているよう
で、「昔の夏はこんなに暑くはなかつた」と嘆く日が9月下旬、いや10月上旬まで続いた。文学館では、秋の企画展【ふしぎ駄菓子屋 錢天堂】へようこそ】がおかげさまで大好評をいただき、大勢のお客様にお越しいただいたこともあります。ゆつくり秋を楽しむ余裕がなかつたという贅沢な事情もあるが。そんな短い秋の、木枯らし1号が吹いた頃、ふと頭の中に流れてきた歌があった。

ふけゆく秋の夜
旅の空の
わびしき思いに
ひとり悩む
恋しやふるさと
なつかし父母
夢路にたどるは
さとの家路

「旅愁」(1907年発表)という唱歌の感傷的な歌詞を柄
にもなく思い出したのは、人生の秋を迎えて日和つたため
ばかりではなく、冬の企画展「生誕150年 幸徳秋水展」
の準備を進めていたことも関係していると思う。

立場や世代によつて賛否や疑問はあるとも、当館の顕彰
作家の一人、郷土出身の先覚者の生涯や著作物に初めて正面
から向き合えたのは、有意義な経験であった。

窓うつ嵐に夢もやぶれ
はるけきかなたに心まよう
恋しやふるさとなつかし父母
思ひに浮かぶは杜のこずえ

秋水の40年という短い人生や最期の覚悟を想うとき、
万感迫るものがある。

幸徳秋水様
あなたはどんな未来を作りたかったのですか。
大切にしたかったものは何ですか。

厳しい冬の中で、ここから問い合わせたい。

(原哲)

企画展【「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」へようこそ】の終了に際して
「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」の著者・廣嶋玲子先生とjyajya先生より
あたたかいメッセージをいただきました。改めて御礼申し上げます。

廣嶋玲子先生より メッセージ



すごい!
こんなにたくさんのお客様が
いらしてくれた展示会、
ああ、私も行ったかったです!
本当にありがとうございました。
今後ともよろしくお願
いいたします。

jyajya先生より メッセージ



たくさんのお客様が来館され、
とても嬉しいです。
皆様のお力で無事展示会が出来
た事、心より御礼申し上げます。
展示会を直に体験でき、とても
良い思い出になりました!
今後とも何卒よろしくお願
い致します。

©廣嶋玲子・jyajya／偕成社

高知県立文学館 カレンダー



12月27日～1月1日は年末年始のため休館となります。



開催中!!

生誕
150年

幸徳秋水展

令和3年
(2021)

11.27 [土]

▶ 令和4年
(2022) 1.24 [月]

会 場 高知県立文学館 2階企画展示室

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分)

観 覧 料 一般400円(常設展含む)、長寿手帳等お持ちの方・
高校生以下は無料

展覧会の紹介をしています! 詳しくは表紙・2ページ目をご覧ください。

関連企画

※参加には当日観覧券が必要です。

※事前申込方法: 電話または文学館受付にて申し込みください。



◆記念講演会「幸徳秋水と翻訳」

〈講 師〉山泉進氏(明治大学名誉教授)
 〈日 時〉令和3年12月5日(日)午後2時～3時半
 〈会 場〉当館1階ホール
 〈定 員〉50名

要事前
申込※

◆クイズイベント

〈日 時〉
 令和3年12月12日(日)、
 令和4年1月9日(日)、10日(月・祝)
 各日午前10時～午後4時
 〈会 場〉当館2階展示室内



秋水追悼イベント ★1月24日は秋水の命日です。

◆「100年の歴史 大逆事件は生きている」上映会
 (朗読:高橋理恵子/語り:根岸朗/制作:千原卓司)
 〈日 時〉令和4年1月24日(月)午後2時～3時半
 〈会 場〉当館1階ホール
 〈定 員〉50名

要事前
申込※

当日展示を観覧された皆様に、ささやかなプレゼントをご用意しています!

◆展示解説

〈日 時〉
 令和3年12月4日(土)、18日(土)、
 令和4年1月8日(土)、15日(土)
 各日午後1時半～
 〈会 場〉当館2階 企画展示室内

次回開催

旅と文学展

令和4年

2月5日(土)～3月27日(日) 観覧料:一般400円(常設展含む)、長寿手帳等お持ちの方・高校生以下は無料

新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みにご協力をお願いします。

(マスクの着用・手指のアルコール消毒・適切な距離を保つての鑑賞・イベント時のホール入場前の検温など)

※新型コロナウイルスの感染拡大状況によって、展覧会及びイベントは内容変更または中止となる場合があります。

高知県立文学館で開催する企画展・その他事業は職員全員で消毒・清掃を行い、
安心・安全に利用いただけるよう感染予防・拡大防止対策を行っております。

利 用 案 内

開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時半まで)

休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休。

※その他メンテナンス等で臨時休館することもあります。

観覧料 常設展一般370円 企画展はそれぞれ異なります。

20名以上の団体は2割引。高校生以下無料。

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳、

戦傷病手帳又は被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者1名、
高知県・高知市長寿手帳をお持ちの方は無料です。

(窓口で手帳等のご提示をお願いする場合があります)

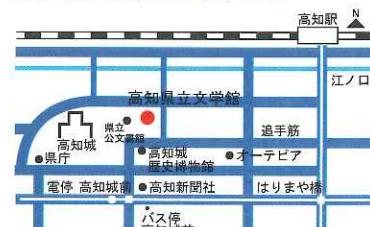
駐車場 なし。ただし近辺に有料駐車場があります。

附帯設備 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、

茶室「慶雲庵」

貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

交 通 の ご 案 内



●高知駅馬空港より空港連絡バス(県庁前行)

「高知城前」下車、北へ徒歩5分または

〈高知駅前〉「北はりまや橋」下車、徒歩20分

●JR高知駅下車、徒歩20分(または連絡バス・路面電車を利用)

●路面電車「高知城前」下車、北へ徒歩5分

●バス停「高知城前」下車、北へ徒歩5分

高 知 県 立
文 学 館〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目1-20
電話 088-822-0231
FAX 088-871-7857

高知県立文学館 検索

